

令和3年度 名張市地域活力創生会議 会議録【要約】

日時：令和3年7月5日（月）

午後2時30分～4時40分

場所：名張市役所 2階 庁議室

1 市長挨拶

皆様には、名張市地域活力創生会議の委員としてご就任をいただき、また、本日は万障繰り合わせの上ご出席をいただきありがとうございます。

政府の方では国家予算の骨太方針が示され、地方創生の分野において新たな展開を図るとして分散型国土を創出の方針が盛り込まれています。委員の皆様には、一層のご指導を賜りますようよろしくお願いします。

この後、事務局の方から、昨年の取組報告を行います。毎年、実施している市民意識調査での項目では「住みよい」、「住み続けたい」について常に80%を超える状況が継続しており、昨年は85%を超える結果となっています。他の自治体では60～70%程度であることから、本市が高い水準で推移しているのは、本市において20年前から地域共生社会の実現に向け取り組んでおり、市民の皆様の意識が高くまちづくりの主体者であることが、こうした住民満足度につながっているところです。私が常日頃、職員にも伝えているところですが、市役所が頑張っているのではなく、市民の皆さんのおかげである、感謝の限りでございます。しかしながら、この2年間のコロナ禍におきまして、外出自粛などの影響により意識調査の結果にも変化がございました。いち早く、コロナを封じ込めて活性化をしていかないといけないと感じています。

また、本市は子育て・教育で選ばれていることが、数字でも表れてきています。10年前から発達支援の分野で専門家を設置し、支援の充実を図っており、早期発見、早期支援によって社会参加が叶っていくことにつながるため、支援体制に磨きをかけていかなければならないところです。教育におきましては、旧桔梗が丘中学校の後に、不登校の子などの受け入れを行う学校が開設されます。そちらとも連携し、夜間中学などの展開ができていけばいいと考えていますので、今後もより一層のご指導を賜りますよう、よろしくお願いします。

2 委員紹介

事務局より【資料1】に基づき委員紹介

3 名張市地域活力創生会議の設置について

事務局より【資料2】に基づき説明

(市長が議長となり会議を進行)

4 地域活力の創生に向けた取組について

事務局より【資料3】に基づき説明

<委員>

- ・名張市のワクチン接種は、スピーディーな対応をいただき感謝している。
- ・各保育園では、市の取組によって、子ども発達支援センターや医療機関をはじめ色々な機関との連携により、各分野からアドバイスを頂く機会も増えている。これらによって保育士の専門性が高まっており、保護者からの安心度も高くなっている。
- ・「ばりっ子ピカピカ小1学級体験プロジェクト」では、保育園の遊びの中で体験したことや楽しかったことが学校の勉強に結びつくことで小学校の生活に馴染むことができるようになったと感じている。このプロジェクトの開始までは「とぎれ」を感じていた。昨年度はコロナ禍で年2回の実施であったが、もっと回数が増えてもいいと思う。保護者も楽しみにしている。

<議長>

名張市では1歳半、3歳、5歳の健診によって支援が必要な児童の早期発見を行って支援に結び付け、個人カードを作成して保育園、小学校、中学校へと連携できるよう重層型支援を行っています。「ばりっ子ピカピカ小1学級体験プロジェクト」では、保育園から小学校へスムーズに移行できるよう取り組んでおり、小中一貫教育も含めて、今後も充実させていく必要があると考えています。

<委員>

- ・地域づくりに携わる方の中心が75歳以上となっており、60歳代でも少人数である。次の世代をどう獲得するかが深刻である。
- ・住宅地において転入者が40代のファミリー層が多いが、自治会の加入も、役員がお願いしてやっと加入してもらっている状態である。また、加入してもらってからも地域づくりの役割や意味などを理解してもらえなかったり、また、個人情報保護の点などからも世代間で考え方の違いを感じる。

<議長>

名張市の地域づくり組織の取組は、その先進的な取組が全国から注目をされているところですが、地域によっても差がありますが、地域づくり組織と目的別団体との連携、また、若者が中心となった取組なども好事例もでてきているので、これらが広がっていけばと思っています。

<委員>

- ・昨年度は「第1回名張学園祭」の実行委員長として企画・運営に携わった。高校生もメンバーとして加わって、地域の方に、高校の部活動を知ってもらうための機会を設けるなどの工夫を行い、結果、学校の枠を超えた地域活性化のイベントとなった。

- ・今年度は高校生が主体となり、大学生がサポートしている。今回はクイズラリーを企画しており、クイズを作る段階から名張を知る機会となっている。

<議長>

こうした好事例の取組に、いろいろな分野の人ももっと参入してもらえたらと思います。行政もできる限りサポートしていけたらと思っています。

<委員>

- ・農林振興に関して、私自身もずいぶん前から予想はしていたことであるが、K P Iにも設定されている「新規就農者」がゼロであるのが残念である。新規就農者が増えるような取組として、昨年度には、市の農林資源室と一緒に「農」に関するオンラインセミナーを実施したり、自身がモデルとなり農業に関する発信をしてきたが、一農園ができることも限られている。実際、本当に就農を目指し揺れている人の背中を押すことができるよう、名張の農業の魅力をわかりやすくシンプルに発信する必要がある。

<議長>

名張の農業の狙いとしては、農地集積をして大規模な産業として成り立つ農業と、もうひとつは、家族農業・小規模農業で付加価値の高い産業として成り立つ農業を進めることとしています。農業者のみなさんには、名張の特産品として売り込むものを作っていたいており、期待もしているところですが、この魅力を行政としてもどんどん発信していければと思っています。

<委員>

- ・コロナで観光業界は大打撃を受け、この状況が長期化していることも危機的である。しばらくこの状況が続くことを想定した「w i t h コロナ」の準備をしておく必要がある。
- ・専門性の高い観光商品づくりが必要である。「観光」という題材で、若い世代が参加型の地域おこしや農業体験を組み合わせたもの、また、将来的に空き家活用と移住を組み合わせたものなど、また、そこへ地域づくり組織や商工会議所などの色々な主体が関わることで可能性が広がると思う。
- ・地域づくりの担い手不足に関して、現在、携わっている人が、いかに若い世代を引き寄せて協働で物事を進めていけるか、お互いの理解がないと進まないと思う。赤目地域などは、若い世代が地域づくりに参加して、うまく進んでいると思う。

<議長>

赤目地域は市内で最大の観光地でもあり、地域ぐるみで移住者の受け入れを行っていて体制が整っている地域です。コロナ禍であるため、観光メニューも参加型というのは難しいところではありますが、例えばウォーキングなど工夫次第では色々な取組ができるのではないかと考えています。

<委員>

- ・自身もこれまで10都市に居住した経験があるが、名張の良さは利便性だと思う。買い物をするにしても、国道165号線沿いを走れば、生活に必要なものが揃う。都会であれば、

自動車で移動するにしても渋滞や駐車料金が高等など、都会ならではの不便さがある。

「生活に便利なまち」というだけでは地味なアピールになるかもしれないが、例えば名張市での1日の生活のモデルケースを具体的に示すことで、便利さが伝えられるのではないか。

- ・若者の転出抑制より、UターンIターン獲得のため、名張でどんな仕事ができるか、どれだけ稼げるかを発信するのも必要と思う。色々な組織が各々で発信するより、共通のスローガンがあればアピールしやすいのではないか。「自然共生のまち」など、インパクトが強いスローガンがあればいいと思う。

<議長>

本市が移住先として選ばれている理由としては、子育て・教育の施策です。とくに、教育においては、西から東方面へ通学が可能な範囲の中で高校進学を選択肢が広いこともひとつです。利便性も強みであるほか、車で10分も走ればトレッキングができる自然豊かな環境であることも魅力です。4月から着任いただいている地域おこし協力隊からも、環境のいいところで子育てしたかったとの声を聞いています。また、市のPRでは、これまで「社会から排除される人をつくらない、誰一人とり残さない、社会のしんがりは名張にまかせろ」として発信をしてきておりますが、ほかのスローガンも検討していければと思います。

<委員>

- ・若い世代の転出が深刻であるが、近大高専においても市内企業への就職が約1/10程度、県内になると1/4程度である。今後も市内企業への就職が増えるようもっと目を向ける仕組みが必要である。
- ・「GIGAスクール構想実現事業」では、タブレットはiPadを導入されたと思うが、小・中・高の教材のつなぎも必要だと思う。また、遠隔授業においては家庭側の通信環境の整備も課題である。

<議長>

若い世代が転出する理由としては進学、就職、結婚です。近大高専の学生がもっと地元企業へ就職してもらえたらと思っています。また、GIGAスクール構想実現事業では、小学生はゲーム的な感覚でタブレットの操作を覚えるのも早いと聞いています。家庭の通信環境は今後の課題と考えています。

<委員>

コロナ禍で様々な影響がある中、地域の金融団としても幅広い支援を行っていききたい。

<議長>

金融機関においてもコロナ禍で大変な状況が続いているところですが、地元との連携や協働が必要であり、今後も地方創生の取組を一緒に行っていければと思っています。

<委員>

- ・ハローワークの就労相談において、働くお母さんが相談しやすいよう、子連れ用のコーナ

一を設けるなど配慮している。子育て世代の女性を雇用する企業側からは「職場に活気が戻った」といった現場の声もいただいている。また、ハローワークから企業側には「融通が利く働きやすい時間帯」「まずは簡単な作業から」など配慮してもらおうよう呼びかけている。

- ・働くお母さんの希望職種は、圧倒的に「事務職」が多いが、求人は医療・介護が多い。子どもに手がかかる期間は限られているので、そのライフステージに合わせて職種を変更するなどシフトチェンジができる方は、キャリアアップされている。
- ・自宅から就職先の職場と保育園との動線がバラバラなケースがある。また、シングルマザーは、一人で子育てすることで悩みを抱え込んでいるケースがある。

<議長>

介護職の人材確保のため、国の予算によってリモートで資格取得の取組を行う予定があります。女性の雇用に関する相談や支援についても今後もサポートをよろしく願います。

<委員>

- ・旧町の町並みや初瀬街道沿いには、歴史的建造物がたくさんあり、とても面白いと思う。人の生活がしっかり成り立っているにもかかわらず、美しいまち並みや水路などはとても趣がある。これらのまち並みは、意識して残されたモノではなく、結果的に残ってきたものであるが、国などの財源を確保して残す手立てを考えてはどうか。
- ・旧町の歴史的なまち並みについて、近大高専の調査が入っているが、こうした若い人が携わっている調査は市のPRにもなるので、もっと光が当たるよう発信したらいいと思う。
- ・ストリートピアノが国内でも流行っているが、廃校のピアノを活用するなど近隣市町の先駆けとして置いてはどうか。そのまわりに集う人同士で生まれる交流も期待できる。

<委員>

旧町まちなみ保存と近大高専の研究は、今後の大きなテーマであると考えています。また、ストリートピアノについては研究をさせていただきたいと思います。

<委員>

- ・昨年度の取組報告の資料について、内部評価のページ（14ページほか）において、取組のタイトルをまとめて表現するなど、読みやすいように工夫しては。
- ・昨年度の取組報告の資料について、「GIGA構想実現事業」などの文言で注釈を入れた方がよいのでは。
- ・昨年度の取組報告の資料について、市民意識調査の結果について、「住みごち」「継続居住意向」について令和2年度以降は上昇しているが、令和元年度の調査では減少している。資料に表さなくとも、分析をしておく必要があると思う。

<市長>

色々な有意義なご意見を賜りまして有難うございました。また、頂戴したご意見をまとめたものを確認し、今後の行政にも反映させていただきたいと思います。

以上